

柔道整復科

包帯 1

対象	1年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習+実技	時間数	30	単位	1
担当教員	難波英樹			実務経験	有	職種	柔道整復師				

授業概要

包帯は柔道整復師の行う施術法の中に含まれ、患部の安静を図るなどの手段として理解をする学問である。授業形態は、主に実技中心で包帯1では包帯に関する基礎知識から固定材料の基礎知識を学び、基本包帯法の基礎となる技術を習得する。

到達目標

環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯、主亀甲帯を基本に授業を行う。冠名包帯や投石帯などを状況に合わせた包帯法を含め、金属副子や副木、厚紙副子といった硬性材料の作成、軟性材料の適切な使用ができることを目標とする。

授業方法

基本包帯法の実技を中心に、冠名包帯法、固定材料の作成、固定時の注意点を踏まえて実施する。

成績評価方法

試験と課題を総合的に評価する。

履修上の注意

この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

教科書教材

教科書（包帯固定学一般社団法人全国柔道整復学校協会監修一）に準拠する。

回数	授業計画
第1回	授業概要の説明巻軸包帯について
第2回	巻き方と注意事項固定の目的
第3回	固定の範囲固定の肢位

柔道整復科

包帯 1

第 4 回	基本包帯法(1)
第 5 回	基本包帯法(2)
第 6 回	基本包帯法(3)
第 7 回	基本包帯法(4)
第 8 回	振り返り(1)
第 9 回	振り返り(1)
第 10 回	部位での基本包帯法(2)
第 11 回	部位での基本包帯法(3)
第 12 回	軟性固定材料(1)
第 13 回	軟性固定材料(2)
第 14 回	硬性固定材料
第 15 回	振り返り(2)